

インフィニティ株式会社

ビジネスのアイデアだけではなく 特許を取得している意義は大きい

常に進化が求められるIT業界において、長年のノウハウの蓄積に加えて、最新技術の導入にも取り組みながら、クライアントの要望に応える確かな技術力を提供。自社開発の3Dエンジンやツールを使用して開発されている各種コンシューマ・ゲームは人気が高い。こうした企業活動とともに、さらなる次代へ向けた画期的なサービスも生み出そうとしている。

主な権利

2018年：特許 第6450473号
(株式会社イーシーバード)

会社概要

所在地：東京都目黒区中目黒1-3-8 渡辺ビル7F
電話：03-3792-8011
URL：http://www.infinity-soft.co.jp
業種：コンピュータ・ゲーム・ソフトウェアの開発など
設立：1986年(昭和61年) 資本金：1,000万円



専務取締役：堀本 れい子さん

特許出願への拒絶通知を受けもうダメだと勘違いしていた

人気のあるさまざまなゲームやソフトウェアなどの開発に長年携わってきた、インフィニティ株式会社。以前は知財との関わりが強いわけではなかったが、堀本専務のバイタリティーあふれる行動から、知財センターを知るようになった。「最初は、知財センターが主催する特許のセミナーに参加しました。そこでセミナー後に個別相談として、知財センターのアドバイザーに長々と質問していたんです。そうしたところ、『もっと詳しく知財について学んではいかがですか』と、ニッチトップ育成支援というプログラムがあることを教えてもらいました」

かなり以前に国内で特許を出願したことはあったが、拒絶通知が届いた後は、ずっとそのままにしていたという。「一度拒絶されたものはもうダメで、それで終了だと勘違いしてしまっただけです。今のうちに、ネットで検索して知識を得るといって時代でもなかったですし、拒絶とい

うのがよくある話で、再度内容を吟味してあきらめずに対応する人が多いと知ったのは、だいぶ後になってからです。基本的なことを知らないという不勉強が、どれだけ損になるかよく分かりました」と、堀本専務は明るい声で語られた。

オンラインショッピングの新たなスキームで特許取得へ

堀本専務は、ゲーム開発に始まり、ソフトウェアやサービスの企画を行う仕事を主にしている。しかし、一人の生活者の視点で、オンラインショッピングに関する特許を取得したいという具体的なビジョンを持っていた。「自分がよくオンラインショッピングをするのですが、こういうサービスがあったら便利だと思ったりすることがありました。簡単な言うと、複数のECサイトで買い物をする時、どのサイトで商品を購入すれば最も安いかを確認するのに手間がかかる。でも、ECサイト別に商品の価格が一覧できれば、比較検討が容易にできます。そして、お気に入り

の情報をメンバーのみんなと共有したり発信したいと思う人は、そんな機能があたらうれいでしょう。ECサイトでの買い物を通じたSNSとでも言えるのでしょうか。そうした新しいサービスはどうかと簡単なアンケート調査を行ったところ、需要がありそうな手応えもつかまりました」と堀本専務。

今よりもっと楽しいコミュニケーションが広がりそうなこの事業を、堀本専務が代表取締役を務める新会社、株式会社イーシーバードへ移管して、サービスの提供につなげようとしている。

東京都にいたのであれば 知財センターを利用すべき

そして3年間のニッチトップ育成支援を通じたサポートもあり、今度は拒絶もなしに1回の出願で無事に特許を取得した。さらには、知財センターの海外特許出願費用助成事業を活用し、アメリカにおいても出願を行っている。

ニッチトップ育成支援について堀本専

いつでもかんたん! 最安値!
ネットショッピング支援サービス事業



ネットショッピング支援サービス事業の概念図。堀本専務が代表取締役を務める新会社、株式会社イーシーバードで事業を計画中。



マルチプラットフォーム3Dエンジン



自社オリジナルの技術である「マルチプラットフォーム3Dエンジン」。スムーズかつスピーディーなゲーム開発を可能としている。

当社が手がけた最近のゲーム作品の中の一つ、「超・バトル中 究極の忍とバトルプレイヤー頂上決戦!」。シリーズ累計販売本数は100万本を超えている。

務は、「特許だけではなく、著作権や契約、商標に関することまで幅広く学ぶことができました。例えば商標出願に関しても、なぜこのジャンルまで考える必要があるのかなど、細かい部分まで教えてもらえます。それぞれの専門の方からお話を聞くことができ、知財センターの充実した体制にも驚かされました。ですから、私の周りのいろんな人に『東京都にいれば、知財センターのシステムを使わないと損だよ』と教えてあげています。熟練のアドバイザーからマンツーマンで学べますが、もし同じ内容を民間で学ぼうとしたら、多額の費用がかかってしまうのではないのでしょうか」と語った。

サービスの展開に合わせて 今後も特許内容を見直したい

今後の知財に関する展開について、堀本専務に尋ねた。「私たちがこれから気をつけるべきなのは、モノづくりを行っているわけではないという点でしょうか。ITやAIの世界では、時代によってどん

どん形が変わっていく部分があります。ですから、今後もサービスの展開に合わせて、特許の内容などを見直しながらかえていく必要があるでしょう。別の立場や見方というものを、常に想定しておきたいと考えています」

また、ビジネスのアイデアだけで勝負することと、既に特許を取得しているもので勝負していくことでは、意味合いが大きく異なると堀本専務は語る。「私たちがそのような中小企業が大手とビジネスの話をする際にも、当社が独自の知財戦略を有し、国内だけではなく海外においても展開していることを知ってもらおうと、向き合い方も変わってくると思っています」

ニッチトップ育成支援では 効率的に考えつつ知財を習得

最後に、改めて知財センターのアドバイザーについて、率直な感想をうかがった。「最初はきっと、本当にこちらが何も知らないことに驚かれたと思いますが、とても根気よくいろいろなことを教えてもらいました。ニッチトップ育成支援の時間をフルに使って、さらにはこちらが効率的に考えながら知財を習得できるように課題も出してもらいました。アドバイザーの方々と、人のつながりができたことも大きいと思います。プロの意見を聞くのと聞かないのでは、180度考えが変わってくるということもありますね」

瞳を輝かせながら丁寧に話された堀本専務。インフィニティという社名に象徴される無限大の可能性は、これからさらにイーシーバードという新たな世界への羽ばたきにもつながって行くのだろう。

知財センターから

新規事業の立ち上げとともに特許にも着目

知財の基礎知識の習得を目的に、事例なども紹介しながらニッチトップ育成支援を実施しました。また、新規事業としてのオンラインショッピングに関する特許出願や、それをベースにしたPCT出願という特許協力条約に基づく国際出願も行いました。成果の一つとして、国内特許が取得できたのも良かったです。担当：秋葉原 田島/村石アドバイザー